
さようなら、セックス

リディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さようなら、セックス

【Nコード】

N3151G

【作者名】

リディ

【あらすじ】

別れる最後の晩。あなたがみていた私はいない。

（前書き）

性描写はありませんが、大人向けです。

きつとこれが最後のセックスになるんだ。

私は、冷静に考えていた。

慣れた手つき、馴染んだ体温、相変わらずな手順。

あ、隣の部屋電気つけっぱなしだ。

そんなことを考える自分に少し笑える。

ときめかないの。

あなたといても、私は私で。

所詮セックスはセックスで。

だんだん虚しくなる時間。

こんなことに時間を使うなら寝たい。

明日も私は仕事なのに。

付き合い当初はセックスが好きな彼が好きだった。

知らないあなたと言葉を埋める時間。

私達はセックスで時間を埋めすぎた。

言葉が必要な時になっても彼はセックスで埋めようとして。

私達はお互いを知らないまま、一年を過ごした。

表面的にはきつとお互いの事は知りすぎるほどに知っていたのに。

あなたが好きな食べ物。

あなたの仕事が終わる時間。

あなたの友人。

あなたが好きな趣味。

私が知りたかったのはそんな事じゃないと言っても彼は困った子供のような顔をしてベッドに誘うだけ。

言葉を、言葉を頂戴。

好きや愛してるなんていらない。

欲しかったのはあなたの心。

賛辞をしてごまかさなくていい。

汚い私を認めて。私をきちんとみて。

初めて浮気をした晩。

私には罪悪感は無かった。

あったのは初めて寝る人への期待だけだった。

その日の晩メールをしなかった事は寝ていたの、と送れば彼は信じて疑いもしないことは解っていた。

私を綺麗な人間だという。

可愛くて素直な人間だという。

あなたが愚かで私はあなたを失うことを決めた。

私は綺麗じゃない、綺麗な人間なんていない。

彼の愛撫を受けながら私は彼の背中に爪をたてた。きっと皮膚の薄い彼の背中には赤い跡がついている。

跡はいつか消える。

私への気持ちもいつか消える。

ならば、あなたのいう綺麗なままの私で消えたい。
嫌われる前に、思い出になりたい。

さようなら、言葉を知らない恋人。

さようなら、私をみない恋人。

さようなら、私を好きになってくれた人。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3151g/>

さようなら、セックス

2011年1月29日02時38分発行